



第7回 東京歯科大学 公開講演会



千葉市 科学フェスタ 2012
サテライトイベント

講演 人類学から見たヒトの頭顔面部の特徴

顔や骨、歯の時代的变化(進化)と法的分野での役割

東京歯科大学法人類学研究室 教授

橋本 正次



日時

平成24年11月24日(土)
14:00~15:30

場所

東京歯科大学
千葉校舎講堂

共催

真砂地区コミュニティづくり懇談会
千葉市社会福祉協議会真砂地区部会
千葉市第31地区町内自治会連絡協議会

入場
無料

[事前予約不要]



お問い合わせ
東京歯科大学企画・調査室
TEL043-270-3739
〒261-8502 千葉市美浜区真砂1-2-2



人類学から見たヒトの頭顔面部の特徴 顔や骨、歯の時代的变化(進化)と法的分野での役割

最近、四角っぽい顔の人より、ほっそりした顔の人が増えてきていると言われます。そしてこのままの変化が進行すれば50年後には、多くの人の顔が下方の尖った逆三角形になるという予測もあります。つまり、顎の形が時代とともに変わっているということです。このような頭顔面部の特徴の変化は、人類がこの世に出現してから、現代に至るまでにも様々に認められています。下顎が前方に突き出るような形状をしていた猿人、その下顎が後方にさがってオトガイという部位が出現した新人、歯の数についてもほとんど全ての人が32本であった頃から現在では28本の人が多くなってきています。顎や歯の形や大きさも変化しています。このような変化の原因の一つに、食べ物が変化してきたことが考えられます。硬いものから柔らかいものに食物の性質が変化すれば、それに伴って咬む回数も減少し、顎や歯の形にも影響を及ぼすことになるわけです。そして、この顎の変化と歯の大きさや数の変化に調和がないために、叢生（いわゆる乱ぐい歯）になる頻度も増加していると思われる。そこで講演では、ヒトの進化の流れの中でのこのような頭顔面部の変化を紹介しながら、人類学的見地からの今後を展望してみたいと思います。

また、顔や骨、歯などの特徴は、万人不同です。従って、これらの特徴はよく知られている指紋と同様に、犯罪や災害において身元のわからない人の識別に利用されているわけです。そして法人類学は、このような法的な領域を扱う分野の一つです。講演では、顔や骨、歯の特徴からどのように個人を特定しているのかについても紹介します。



東京歯科大学法人類学研究室 教授
橋本 正次